図書館員のひみつの本棚　第５１回

　もうすぐ夏休みですね！そんな夏休みに物語や科学の本もいいですが、普段手に取らない詩を読んでみるのはいかがでしょうか？

『木はえらい　イギリス子ども詩集』
谷川　俊太郎／川崎　洋　編訳　岩波少年文庫　2000 年　672 円　詩
科学読物
＜お勧め年齢＞
幼稚園☆☆☆　小低学年☆☆☆　小中学年★☆☆　小高学年★★★　中学生★★☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）
＜本の紹介＞
「ぼくたちいっぱしの男の子
　けど　その前は乳母車なんかに乗っててさ」
で始まる詩「男の子」や、父母懇談会の待合室での気持ちをぼく、お父さん、お母さんそれぞれに書いた「父母懇談会」、姿が消える薬を飲んだいとこのレズリーが胃袋だけが消えずに残った「いとこのレズリーのすけすけ胃袋」など、６人の詩人たちが子どもたちの本音をちょっとブラックなユーモアもまじえながら書いた詩集です。
詩なんてなぁと思う人も試しに読み始めてみてください。きっと面白くて最後まで読んでしまいますよ。
＜子どもに手渡すときのポイント＞
私たち大人が思っているより子どもたちは詩が好きです。図書館や学校でも詩を読むと絵本と同じ、いやそれ以上に子どもたちは身を乗り出して聞いてくれます。今回ご紹介した詩には大人が読むとちょっと眉をひそめそうな表現もありますが、これらの詩はイギリスでは「新しい児童詩の波　新しい波の詩」と呼ばれ、子どもたちに圧倒的な支持を得てきました。親や教師の権威をからかい、汚いことも平気でする子どもたちが描かれているこれらの詩ですが、自然を愛する詩や、家族の動向に小さな心を痛める子どもたちの詩、淡い初恋を描いた詩も多数あり、現代の子どもたちの生活に表面だけでなく内面まで寄り添っているのも特徴です。
詩には目で読むだけでなく声に出して読むという楽しみ方もあります。ぜひ、教室で、ご家庭で声に出して読んでみてあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館　重村　さやか